

2020年10月15日

パナソニックホームズ株式会社

当社オリジナル 居室の間仕切と収納空間を備える移動可能ユニット
在宅ワークや学びに対応できる『可動間仕切収納“コロクロ”』に
デスクタイプを新展開
～戸建住宅の内装部材として提案～

パナソニックホームズ株式会社は、当社戸建住宅のオリジナル内装部材として提案している、居室の間仕切機能と収納空間を備えた移動可能なユニット『可動間仕切収納“コロクロ”^{※1}』において、デスクタイプを10月16日から新しく展開いたします。

昨今のコロナ禍においては、働き方・学び方・在宅の過ごし方の生活様式が変わり、対応できる空間や家具へのニーズが高まっています。当社が実施した在宅ワークに関する調査^{※2}によると、在宅ワークをしている場所は、夫の42%が「書斎・個室」、妻の59%が「リビング」と回答。また、家族との距離感では、「家族がいない別の部屋」について約69%が「好ましい・やや好ましい」、「家族と同じ部屋で距離をとる・視線を遮る」について約34%が「好ましい・やや好ましい」と回答しています。

今回新展開するデスクタイプは、従来の『可動間仕切収納“コロクロ”』に、スライド式テーブルや可動棚、コンセント、ケーブル穴等を備え、在宅ワークや学びに対応が可能。ハンガータイプとの組み合わせにより、豊富な収納量を確保しながら居室の間仕切りができます。

また、底部にローラー付で簡単に移動と固定ができるので、部屋の模様替えにも柔軟に対応できます。置き家具のように設置占有面積が不要で、昇降ハンドルによりユニット上部の一部を天井面に突っ張らせる機能付で地震時に転倒の心配もなく、居室を有効活用しながら、機能的で安全な暮らしを提案します。

当社と株式会社学研ホールディングス(以下、学研)は、良質で機能的・合理的な暮らしの環境を、豊かな住文化として拡大・拡充していく思いを同じくし、2018年10月に子育て世帯向け住宅「KODOMOTTO(こどもっと)」を共同開発。今回の『可動間仕切収納“コロクロ”』デスクタイプの開発にあたって、さまざまな提言やアドバイスを受け、当社の住まいづくりのノウハウと技術で具現化しました。



『可動間仕切収納“コロクロ”』
デスクタイプ

■ 『可動間仕切収納“コロクロ”』について

『可動間仕切収納“コロクロ”』は、1983年に「間仕切収納ユニット」として発売を開始、2002年、新たに可動装置（底部のローラー）を内蔵して現在の仕様になりました。発売開始以来、累計で36,000ユニットを販売しています。また、2017年8月には、キッズデザイン協議会（内閣府認証NPO）が主催する「第11回キッズデザイン賞」【子どもを産み育てやすいデザイン部門】を受賞しています。

発売開始以来、採用されたオーナー様や当社営業の意見・要望、くらしの時流を取り入れて改良を重ね、このたび、18年ぶりにバリエーションを拡充してリニューアルしました。

■ 『可動間仕切収納“コロクロ”』デスクタイプの特長



スライド式テーブル



引き出しの奥行は34cm。
ノートパソコンがそのまま収納できます。

可動棚



ファイルや書籍収納に
奥行24cmと44cmの
2種類を用意

埋込コンセント



配線コードを室内の
コンセントにつないで
使用できます

配線穴



配線穴を側板と背面に設置。
長さ約1.8mの電源コードも
付属しています。



正面扉有りの仕様

● 簡単に移動が可能

昇降ハンドルの操作で底部のローラーを出し、ユニット本体を押し移動・固定ができます。



【設置例】 寝室のウォークインクローゼットと組み合わせた夫のワークスペース(隠れ家)



【設置例】 寝室の一角に設けた妻のワークスペース



■ 『可動間仕切収納“コロクロ”』デスクタイプ 概要

- ・ 名 称 : 『可動間仕切収納“コロクロ”』デスクタイプ
- ・ 展 開 開 始 : 2020年10月16日
- ・ 対 象 住 宅 : パナソニックホームズの全戸建住宅用オリジナル内装部材としてオプション提案

●『可動間仕切収納“コロクロ”』シリーズ バリエーション

		ハンガータイプ		デスクタイプ(今回新展開)	
バリエーション		W1210	W850	W1210	W850
					
サイズ	高さ	高さ 2,300mm			
	幅	幅 1,210mm	幅 850mm	幅 1,210mm	幅 850mm
	奥行	奥行 550mm(扉有) 530mm(扉無)			

※全品、扉有り・扉無しが選択可能

◎『可動間仕切収納“コロクロ”』の詳細はこちら

<https://homes.panasonic.com/common/storage/kadoumajikiri>

※1: “コロクロ”は、2020年10月商標登録手続き中。

※2: 当社調査 A/調査方法= WEB アンケート、対象者=全国 30~40 歳代子持既婚の男女 300 人・男女とも有職者で
 コロナ禍での在宅勤務あり、調査期間=2020年7月22日~7月30日
 当社調査 B/調査方法= WEB アンケート、対象者=全国 25~44 歳 未既婚男女 計 1052 人、調査期間= 2020
 年 6 月 25 日~6 月 30 日

ご参考

当社と学研の住まいづくり協業においては、東洋大学 情報連携学部の渡邊教授にも監修をいただいています。今回、『可動間仕切収納』にデスクタイプの展開にあたり、コロナ禍における暮らしと住まいのあり方について、渡邊教授からコメントをいただきました。

学研グループ 株式会社学研ココファンスタッフ アカデミー事業部 吉田副部長のコメントと併せてご紹介します。

● 東洋大学 情報連携学部 渡邊 朗子教授<博士・一級建築士>

私の専門は、建築計画・設計ですが、情報社会の中において、どのような建築空間、生活空間が望まれるのかということに興味があり、研究を行ってきました。その研究の中で、情報活動の生産性を上げるためには、次のような知的な活動を支える空間が大事であることがわかりました。

- ①没入・集中して新しい情報や知識を創り出す(ファンタサイズ)、
- ②他者と情報を交換する(コミュニケーション)、
- ③情報が活用可能な形で蓄積されている(アーカイブ)



2018年にパナソニック ホームズと学研が、「家族みんなが成長する家」として共同開発した「KODOMOTTO(こどもっと)」には、この三つの空間を取り入れて、子どもだけでなく大人も生涯を通じて成長できるような工夫をしています。

特に、「ファンタサイズ」は、何かに集中・没入して、新しい情報や知識を創るというモードですが、コロナ禍の中でリモートワークやリモート授業など、家で仕事や学習をせざるえない環境になった現在、情報活動の生産性を上げるためには、集中・没入して仕事ができるワークスペースが家の中にあることが望ましいといえます。

個人のワークスペースが家の中に必要ということになると、本来であれば、家族の人数分、書斎を作るということが実現できればいいわけです。しかし、日本の住環境では、なかなかそれは難しい。限られた環境の中で、どうやってうまく融通をつけるかを考えたときに、今回新しく展開する『可動間仕切収納』デスクタイプのように、間仕切り(壁)にもなり、家具でもあり、机にもなるという可変性のある収納をうまく活用して、仮設的にファンタサイズ(集中・没入)の活動ができるワークスペースがつけれると、非常によいのではないかと思います。

また、『可動間仕切収納』デスクタイプは、コンセントや配線が配慮され、ネットワーク環境にすぐに接続できる工夫がある点や、プリンターやパソコン、機密書類という仕事関係のものをまとめて収納でき、仕事のテリトリーとして活用できそうな点も好感がもてます。

今まで「家」は、「消費する器」だといわれていましたが、コロナ禍によって、住まうだけでなく、情報発信をしたり、仕事をしたり、学びをしたりということの中核的な役割を担うようになってきました。今後は、むしろ、家から情報を創っていったり、発信していったりするなど、まさに生産活動に携わっていくというターミナルになっていくと考えています。

そのような家の中では、仕事においても自分なりのターミナル＝そこに必ず戻ってくるという場所が必要といえます。生活そのものが情報と結びついて切り離せなくなっているのです。パソコンなどを使って入力、検索をする情報活動を支える物理的な環境づくりは、今後さらに重要になると考えます。

コロナ禍がもたらした大きな社会状況の変化を考えると、時代の変化や仕事のやり方の変化に合わせて、家をより心地よく、快適になるようにカスタマイズしていくということも必要になってくると考えます。ぜひ今回の『可動間仕切収納』デスクタイプを新しい生活様式の中で、家をより快適にカスタマイズし、情報活動を支える環境を整備するために役立てて欲しいと思います。

● 株式会社学研ココファンスタッフ アカデミー事業部 吉田 弥生副部長

学研グループでは保育園や学童、塾を運営しており、子育て世代の保護者の皆さんから話を伺う機会が多くあります。コロナ禍において、その話の中から見えてきたのは、子育て家庭が直面している大変な状況でした。保護者の皆さんは、家族を感染から守り、子どもを支える教育環境を整え、買い物に自由に出られない中、マスクなどの生活必需品を確保し、3食作り、新しい働き方であるリモートワークで成果を上げるという複数の役割を求められ、必死にその役割に取り組んでいました。



「寝る時間を削っても全然間に合わない。」「自分がいっぱいいっぱい」「仕事が家の中でもずっと続いている感じ」などの言葉をたくさん伺いました。そんな状況でも、子どものため、仕事で成果を上げるため、明日は今日よりも良い日にしようと、前向きに取り組んでいる保護者の方が多かったことが印象的でした。話を聞いている運営側が励まされることもしばしばありました。大変な状況の中で目的を達成するためには、目標をたて、計画し、集中して実行することが必要です。コロナ禍で在宅の時間が長くなった今だからこそ、目標や計画をたて、心を整えられるワークスペースが家の中に必要だと実感しています。私自身も子育てをしながら働く母親ですが、仕事の中には、リビングのテーブルで子どもと一緒にできるものもある一方、機密情報を扱ったり、何かを創り出したりなど、ある程度こもって集中することが必要な仕事もあります。しかし、子どもの机を置くスペースはあっても、自分の仕事は家族が寝た後、リビングのテーブルなどで行っているという方も多いのではないのでしょうか。

今回、パナソニック ホームズが新しく展開する『可動間仕切収納』デスクタイプは、家の中にコンパクトに設置でき、子どもの成長や家族の生活の変化に合わせて望む場所に簡単に移動でき、間取りを変えられる点がまずうれしいポイントです。また、引き出せる机や資料を保管できる収納が一体になっていて、そこにいけば、すぐに集中して在宅ワークができることが、隙間時間にも仕事をしたい子育て中の保護者にとって助かるポイントではないかと思われます。

また、教育面の効果も見逃せません。子どもは、日常生活の中で、保護者の姿から生き方や学習に対する姿勢を学んでいきます。保護者が身近な空間で、真剣に仕事に向き合い、自ら情報を発信したり創り出したりしていく姿を見せることは、新しい生活様式やデジタル化が急速に進む世の中で生きていく子どもたちにとって、人生 100 年時代を生き抜くための大きな学びやキャリア教育につながると考えられます。

学研グループは、コロナ禍の中、無料で教育コンテンツを発信するなど、子育て家庭への支援を行ってきました。子育て中の保護者の皆さんが直面している状況を見るにつけ、今後も、様々な形で子育て支援を行っていきたくと考えています。今回、学習や仕事に集中するためのノウハウを取り入れて新しく展開する『可動間仕切収納』デスクタイプが、コロナ禍のもとで、子育てと在宅ワークに奮闘する多くの子育て家庭の助けになることを願います。